



白石市⇄聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラとの国際交流

NEWSLETTER

2024 年特別編集号

編集・発行：白石市国際交流協会事務局（白石市まちづくり推進課内）

2024 年度オーストラリア友好親善訪問団

7月29日（月）～8月7日（水）

学校到着後、自分たちのホストブラザー・シスターと記念撮影！



❖2024 年度 オーストラリア友好親善訪問団❖

- 期 間：7月29日（月）～8月7日（水）の10日間
- 内 容：ホームステイ5泊、学校体験2日間
- 訪問団：市内中学2年生10名、引率2名

出発前の訪問団の目標

- ・たくさん学んで来る、仲良くする
- ・自分の英語力を試したい
- ・文化を学んでたくさん友だちをつくる
- ・学校を代表して頑張る
- ・昨年の受け入れ経験で英語が話せなかった。あれから英語をがんばってきたので試してくる

交流先は、日本と深い繋がりのあるオーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州カウラにある聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラです。この交流は2017年にスタートし、今回で5度目の訪問となります。10月には、同校の生徒と教員が来白し、相互交流が実現しました。

訪問団の生徒は、聖ラファエル校に通う生徒宅にホームステイしながら学校に通い、オーストラリアの学校生活を体験しました。また、学校では訪問団全員によるダンスを披露し、グループ活動では、日本の昔遊び、折り紙、書道を紹介しました。

今回のカウラ滞在中には、1944年8月5日「カウラ捕虜収容所日本兵集団脱走事件」発生から80周年となる節目イベントに参加する機会がありました。非常に貴重な体験をすることができ、戦争や平和であることの意味を深く体感することができた研修となりました。

◆シドニー到着

| 7月30日(火)



▲フェリーに乗船



▲夕食後散歩に出かけ、美しい夜景でパチリ

◆シドニー出発→ブルーマウンテン経由カウラ到着→ホストファミリーと対面

| 7月31日(水)



◆聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラとオーストラリアの学校生活



●聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラについて●

・私立のカトリックの完全一貫校。校風は「強さとやさしさを」

・幼稚園児から高校3年生までが通う。

・2024年度の全校生徒数：469名

(初等部：274名、中高等部：195名)

・礼拝堂があり、1年を通して特別な日にはミサ（祭儀）を行う。

●オーストラリアの学校生活●

・学校の年度は、1月下旬から2月上旬に始まり、12月中旬に終了。

・放課後のクラブ活動はなし。1日の授業が終わると一斉下校する。

・生徒は地域のスポーツクラブに所属し活動している。

・学年の呼び方は、6年生以降も7年生、8年生、9年生と、12年生まで続けた呼び方をする。

・生徒による清掃活動はなく、清掃は専門業者が行う。

・学校ではお菓子の持ち込みが許されている。

◆学校体験1日目（ダンス披露・グループ活動、授業体験、校外学習）

| 8月1日（木）



▲ダンス披露



▲こま回しを教えるところ！



▲昔遊びチーム



▲書道チーム



▲「あああ、どうしよう...」「だいたいようぶ！」って感じの会話かな？



▲折り紙チーム。幼稚園児が集まってきました(^^)



▲日本庭園を訪問



▲授業を体験中。日本との違い：ホームルームなし。自分たちが移動する。おやつ持ち込みOK。掃除はせず業者が行うなど。

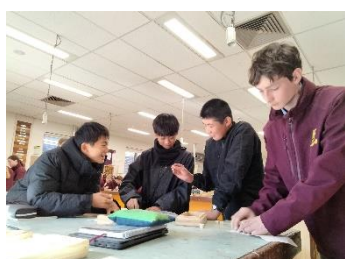


◆学校体験 2 日目（授業体験、校外学習）

| 8 月 2 日（金）



▲授業体験



▲牧場見学



▲羊がたくさん！カウラの産業のひとつ。ラム肉がとても美味しいですよ!(^^)!



▲家畜用車に乗って農場丘の一番高い所まで行きました！



▲慰霊式典で披露する歌の練習中。曲は「春が来た」「ふるさと」の 2 曲



▲式典で披露するカウラと日本の子どもたち。ソプラノ歌手荒井敦子氏と。

◆ホストファミリーと過ごす～ボンファイヤーで全員集合！

| 8 月 3 日（土）

引率 2 名もホームステイで、この日は引率のホストファミリーのベネット先生、校長ご夫妻、国際交流担当のオルボン先生たち関係者一同で遠出。
 夕方はホストファミリーが全員集まりボンファイヤーへ参加。南半球の星空と燃え盛る炎を見ながら、日常では得られない時間を過ごしました。



★生徒の感想★《最初はみんなと仲良くなれるか不安で声をかけるのもためらっていたけど、だんだんと海外に友だちを作りたい、と思うようになって自分から挨拶や話しかけてみたところ、仲良くなることができた》《みんなが優しく接してくれたことがうれしかった》《オーストラリアでたくさんの日本兵が亡くなったことを知った》《スポーツを通じて仲を深めることができた》《フライドポテトを食べる回数が多かった》《改めて英語を好きになった》《当たり前だけどすべてが英語の世界だった》《ホストファミリー全員が英語をうまく話せない私に優しくしてくれた》《景色がとてもきれい。日本とあまりにも違う景色に圧倒された》

◆「第 80 回日本兵集団脱走事件慰霊式典」～節目に行ういくつかのイベントに参加 | 8 月 4 日 (日)



▲日本兵集団脱走事件の慰霊 80 周年記念ミサに参加



▲市民参加型のイベントのランタンパレード。先頭には巨大な鶴。鶴は平和と希望のシンボル。



▲日本庭園から捕虜収容所跡地まで歩きます。
犠牲者の数のランタンを老若男女歩いて持ち運びます。



▲事件発生した 5 日午前 2 時ごろに追悼行事開始。収容所が放火される様子を再現。

◆ホストファミリーとお別れ～慰霊式典で献花～首都キャンベラへ

| 8 月 5 日 (月)



▲朝ホストファミリーと登校し、別れのあいさつ。涙あり笑顔あり（みんな頑張った！）



▲日本側墓地へ献花



▲首都キャンベラへ向かいます！



▲オーストラリア戦争記念館訪問。展示の数々にショックを受け、平和であることの意味をここでも実感。この戦争記念館はオーストラリアがどのように戦争に関わってきたのか、また、どのような犠牲を強いられてきたかを学ぶ所。



▲オーストラリア側墓地へ献花



▲戦没者名が刻まれているところには赤いポピーの花が飾られています。
ポピーは亡くなった兵士を追悼するシンボルとされています。



▲国会議事堂を訪問。無料でガイド付き見学ができます。議場は英国議会と同様、赤（上院）と緑（下院）の内装となっています。



◆首都キャンベラ見学～日本大使館訪問～マウントエインズリー展望台

| 8月6日(火)



▲大使館職員から、大使館・領事館の役割等について説明を受けました。



▲職員の方と記念撮影

▲オーストラリア最後の訪問場所
キャンベラの街を一望できる
マウントエインズリー展望台へ

★カウラ捕虜収容所日本兵集団脱走事件とその後について★



カウラ市には、第二次世界大戦時に捕虜収容所が置かれており、当時約 4000 人が収容され、このうち約 1100 人は日本人だったと言われています。1944 年 8 月 5 日の午前 2 時頃、「生きて虜囚の辱めを受けず」との戦陣訓を叩きこまれていた日本兵捕虜による脱走事件が発生しました。231 人の日本兵捕虜と収容所の警備などを行っていた 4 人のオーストラリア人衛兵が亡くなりました。

集団脱走事件の犠牲者の墓地はしばらく放置されていましたが、これに心を痛めたカウラ退役軍人会のメンバーが、かつての敵対国である日本に対する反日感情が社会に残る中にも関わらず、墓地の維持と管理をするようになりました。その後、オーストラリア連邦政府の協力のもと、第二次世界大戦時にオーストラリア国内で亡くなった日本兵捕虜等を埋葬する日本人戦没者等墓地がカウラ市内の共同墓地の一角に整備され、適切に管理されるようになりました。

現在、カウラ市内には捕虜収容所跡地、日本庭園、サクラアベニュー、世界平和の鐘などが整備されており、カウラ市は今では日本とオーストラリアの戦後和解と友好関係を象徴する街となっています。

◆オーストラリア派遣事業を振り返って...



★生徒の感想★

《オーストラリアの良さを伝えると同時に、カウラで起こった悲惨なことや戦争記念館で展示されていたものを見て感じたことをしっかりと伝えていきたい》《オーストラリアの人たちは友好的で優しい人が多く、多文化共生でお互いを尊重している》《言語や環境が違ってても人のあたたかさ、やさしさというのは世界共通なんだと思った》《お父さん、お母さん、ありがとう！》

★生徒の感想★

《オーストラリア研修、勇気を出して挑戦してよかった》《戦争記念館で見た日本兵が刀を振りかざす写真は見たくなかった。でも、目を背けてはいけなかった》《今回の研修を踏まえて英語を頑張る！英検に挑戦する！》《今後もこの派遣事業が続いてほしいと思う》《将来のために役立つことしかなくらい学びが多かった。今回学べたことを生かしていく》

◆白石市国際交流協会事務局（白石市役所まちづくり推進課内）◆

電話 0224-22-1327 Eメール koryu@city.shiroishi.miyagi.jp